

昼でも夜でもない 変わる学びの形

星城大リハビリ学院「トワイライトコース」

学びの形が多様化する中、昼間部でも夜間部でもないコースを設ける学校が出ている。

理学療法士を育てる専門学校「星城大学リハビリテーション学院」（名古屋市中区）には、午後4時過ぎから授業を始める「トワイライトコース」がある。実習がメインにな

る3年次以外は、午後4時20分から90分の授業が3コマあり、午後9時過ぎに終わる。

夜間部は、フルタイムで働く学生が夜に授業を受けるケースが多かった。昼間部より1日の授業時間が短く、修業年限が長くなる場合もあるが、トワイライトコースは昼間部に

働きながら3年で卒業

あたる「デイトコース」と同じ3年で卒業できる。

同校の青井誠事務長によると、近年は昼間にアルバイトなどをしながら学びたいというニーズが増えており、トワイライトコースを設置した。1年の浜野陽平さん(35)は、会社員を経験してから理学療法士を志した。午前中に介護施設で働いてから通学しており、「早く理学療法士として働きたいので、働きながら3年で卒業できるのは魅力的」と話す。

年齢幅広く子育て中も

トワイライトコースの学生の年齢は10～50代と幅広く、子育て中の人もいる。高校を卒業してすぐ入学した1年の古川祥さん(18)は「人生の先輩から勉強以外のこともいろいろ学べる」と言う。

新型コロナウイルスの影響について、青井事務長は「夜の飲食店の仕事は心配だという声もある。日中の仕事と両立できるトワイライトコースは、コロナの時代に対応した学びの形の一つになるのではないかと期待する。」(山野拓郎)



講師から体の可動域を学ぶ20、30代の学生たち(右の3人) // 名古屋市中区栄1丁目